

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：通所やまゆり

施設種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）
通所介護

日時：令和4年12月19日（月） 13：30～14：30

会場：社会福祉法人やまゆり(生活支援ハウスホール)

送付者
（人数）

利用者代表	0人	有識者	1人
利用者家族	1人	高齢者あんしん支援センター職員	0人
地域住民の代表	2人	出雲市職員	1人
		施設(役職員)	5人

（議題）

1. 利用状況
介護度別、曜日別
2. 活動報告

議題1.利用状況

介護度 要介護5 （男性0名、女性1名）
要介護4 （男性1名、女性3名）
要介護3 （男性1名、女性1名）
要介護2 （男性1名、女性7名）
要介護1 （男性10名、女性10名）
要支援2 （男性2名、女性8名）
要支援1 （男性1名、女性4名）
事業対象者（男性0名、女性3名）

登録数 53名

議題2.活動報告

●令和4年4月～11月までに実施した行事について

- ・納涼祭(8/24～8/26)
- ・敬老会(9/20～9/26)
- ・動画の上映(11/29)

●通所やまゆり職員研修について

令和4年10月に実施した「介護リスクマネジメントと介護事故の防止」の研修について

●意見交換の内容

〈地域住民1〉

通所されている利用者の世帯は、家族と同居が多いか独居が多いか。

- 利用者様の約1割が独居の方です。後の方はご家族と同居されています。
- 一人暮らしの方の中には、移動手段がなく物の調達が難しい人もいます。町外に住む家族が定期的に通院の介助をしたり、買い物の支援を行っている。今後ますますこのようなケースは増えると思われる。一人となっても町内での生活を望まれる方が多いため、行政とも引き続き協議を行い、暮らせる場を提供できるようになるとよい。

〈地域住民1〉

高齢者の中には福祉タクシーを利用される方もいるが、停留所まで出れない人は利用がし辛い。そこで、現在「ドア to ドア」の利用が出来ないかモニタリング中。また、ゴミ出しについても収集所まで持っていけない一人暮らしの方がいることは、以前から課題となっている。

〈市役所〉

ゴミが出せない方はどのようにしておられるか。

〈地域住民1〉

近所の方に頼まれる方。ゴミを出来るだけ出さない工夫をされている方。生ごみは畑で処分される方など、何とかなっているものの不便はある。

- 介護の認定を受けている人で、ゴミ出しに不便がある方はサービス利用を出来るが、認定を受けていない高齢者に対しても法人として何かできないか考えていかないといけない。

〈地域住民2〉

デイサービスの報告を聞いて、よいサービスをしておられる様子が分かった。引き続きであると思うが、サービスを提供し続けていくためには、職員確保が必須。地域としても何か協力が出来ないか常に考えている。法人と協力して問題を解決していきたい。

〈有識者〉

デイサービスで送迎をしてもらうと加算があるか。

- 送迎は利用料金に含まれている。逆に送迎を行わなかった場合は事業所側が減算となる。

〈利用者家族〉

利用定員に対し登録がいっぱいだが、母の出る曜日は少ない日があるのか、「今日は少し寂しかった」と話す時がある。また、先日いつもの送迎の道が工事を通れず、外で待つ時間が長かったとのこと。何か連絡方法等あると良い。

- 利用の登録が18名であっても、ショートステイ利用の方、当日の体調で休まれる方など、日によって利用者人数が変動する。また、送迎に遅れる場合の連絡方法については、事業所内で検討したい。
- デイサービスからの連絡方法については検討するが、送迎の場所によっては、携帯電話のつながらない地域がまだ町内にはある。当法人の居宅介護支援事業所のケアマネジャーの事例でいうと、車にトラブルが起き、事業所に連絡を入れようとしたところ、携帯電話の電波がなく約30分かけて上がってきた道を徒歩で降りてきたという事例もある。この件についても当地域では課題となっている。

以上